

2011年
11月29日
火曜日

市川文彦 教授 (経済史学)

歴史が語るものを、 如何に捉えるか？

* 聖句：「私達は見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」

I

今朝は、舟木 讓先生 (学部宗教
主事) に機会を調べて頂き、秋のシ
リーズ・チャペルで、皆さんにお話
する場を得て幸いを感じており、舟
木先生に感謝致します。

この学部で経済史論を専攻する私
のお話は、〈歴史〉が語るものを、
如何に捉えるか? というものを、
結論を先に示せば、先程、舟木先
生に読んで頂いた今朝の聖句「コリ
ントの信徒への手紙二」4:18 (*)
が問いかける如く、我々が注意を払
うべき事柄は、目に見える容易に認
識できるものばかりでなく、むしろ
私達自身ですら十分に覗き込めない
私達の内面、心の中や、様々な社会
現象の根底や背景にある目に見えぬ
ものにこそ、より十二分に留意し、
気付くための努力をしながら、捉え
ていく必要があるかと思えます。

II

その一例を、今年の3月11日に発
生した東北地方太平洋沖地震から考
えましょう。この3月の大震災はマ
グニチュード9.0に達し、日本列
島の誕生以降、有史以来最大規模と
いわれています。

ただ3月の東北大震災は、既に今
世紀初め、つまり11年前の2000
年前後の研究成果からすれば、約
500年〜1000年周期で起きて
きた大震災の一つと位置づけられも
のです。つまり東北地方では前回、
今から1100年前の平安時代前期
である貞観11 (西暦869) 年に起
こった「貞観大地震」に続く反復的
地震の一環として、3月の大震災は
位置づけられるものです。
「前回の大災害は千年前！」とい
う史実は気の遠くなるような昔のこ
と故に、次回のリスクに備える！

III

おいいたために、それらの街場を有し
た地区は今回の3月大震災でも被害
を殆ど免れ得たという事実です。

先の聖句が教えるように人々の歴
史的経験を含み、目に見えない事
柄、現象にこそ、却って皆さんの感
覚と注意力を研ぎ澄ませ、それらを
捉えていく意識的努力を皆さんも試
みては如何でしょうか？

さて先週、私はゼミ生諸君によ
る毎年恒例の「ゼミ短期ロシア研
修」に同行しウラジオストクに行
って来ました。今年の研修テーマ
は「ロシア社会を掴む!」。目に見
えぬ現象にも注意を払いながら、彼
らが何をロシアで掴んできたのか?
ゼミ生諸君の研修報告を楽しみに
待っているところです。

